

卷 頭 言

雜誌部長 八 波 則 吉

本校開校第五十年記念會の開催に方り、學校でも、同窓會でも、龍南會でも、種々記念事業を計畫した中に、龍南會の雜誌部では特輯號を發行することになつた。協議の末、第三十年記念會には龍南會沿革史を編纂したから、今回は先輩諸賢の龍南回顧録を編むことに極めて、人選、依頼、編輯等を平戸委員に委嘱した。

集まるもの數十篇、論說あり、評論あり、紀行あり、隨筆あり、詩あり、歌あり、俳句あり、千紫萬紅、正に詞藻展覽會の觀がある。好個の記念號を得たと思ふ。

「五高時代ほど楽しい思ひ出はない。」——先輩諸賢の殆ど總べてが斯う言つて居られる。かく申す某も同感である。追憶は概して詩であるが、就中高校時代の追憶には津々たる詩趣がある。想ふに現時在校の生徒諸君にも、今に五年たち、十年たち、三十年たち、五十年たつたら、赤煉瓦の本館を始め、本館前の蘇鐵、榎の木、樟の木、又は、講堂、武夫原、松林、東光原、終諧堂、白草原等、乃至は、諸教授の閻魔帳や、掲示場の赤丸までが、得も云へぬ、懐かしい追憶の詩材となつて再現するであらう。

繁務の間に玉稿を寄せられた先輩諸賢の御好意を感謝し、併せて平戸委員の多勞を謝する。